

認知症になっても安心して暮らせる地域作りを目指し

「一人歩き(徘徊)高齢者発見対応訓練」を10月22日に実施しました。

内容は、徘徊高齢者への声掛け方法を学んでいただき、徘徊役の方々を実際に搜索しました。発見・声掛け・警察への通報を参加者に体験していただくことにより、色々な事を学ぶことができました。参加者の声を一部書き出します。

「最初の一言が難しい。勇気がいる」

「怒らせてしまわないか心配だった」

『通報する時に何を伝えたら良いのかを学んだ』等々

声掛けの大きなポイントは

- ・驚かせない
- ・急がせない
- ・自尊心を傷つけない

この三点になります。



今回行った訓練を契機として、今後地域で認知症に対する見守り支援が進んでいくことを期待しています。

〈追記〉

今回の訓練地域になった遠州浜地区は、高齢化率30%を超える地域で、身寄りもなく、団地で一人暮らしをしている方も多い地域です。地域の繋がりが弱くなっている今だからこそ、このような取り組みが重要になると改めて感じました。

今回の訓練に当たりご協力いただいた遠州浜第二・第三自治会様、民生委員、行政機関、及び南区地域包括支援センターの皆様には本当にお世話になりました。ありがとうございました。

地域包括支援センター芳川 杉浦 通彦



今年の10月6日、静岡県西部健康福祉センター様より「寄贈車いすの受増希望」募集の案内があり、申し込んだところ、寄贈していただけることになりました。12月16日には中遠総合庁舎にて寄贈式が行われ、そこにも参加させていただきました。

この車いすの寄贈は、生命保険協会静岡県協会浜松地区会長様より申し出があったもので、生命保険事業に携わる職員の方々の発意として浄財を募り、昭和52年以来「車いす募金」として行われ続けてきたもの、このことです。

寄贈式当日は県西部の社会福祉法人や障がい者福祉施設等の代表者様17名が出席。静岡県西部健康福祉センター所長の佐藤浩平様のご挨拶の後、生命保険協会静岡県協会浜松地区会長、鹿島紳一郎様より目録をいただきました。

色々な場所で色々な方が「助け合う事、繋がりが合う事」を考え、実践している事実を改めて実感する貴重な機会になりました。本当に有難うございます。大切に使用させていただきます。



寄贈頂いた車椅子。
座面の高さや、ブレーキレバーの長さを変更できます。

芳川の里 鈴木 澄男

